

自然環境教育関連施設と協働するボランティア活動の持続性に関する研究

平松 治 (社会人コース)

1. はじめに

私は、「栗東自然観察の森」で、ボランティア団体「NVR友の会」に所属し、自然環境保全活動を行なっている。本施設は、幼稚園や小学校における自然体験学習の場、自然環境保全に取り組む人材育成の場、及び市民の自然観察の森としての役割を担っている。栗東市の財政上事業は縮小傾向にあり、NVR友の会への期待が高まるなか「ボランティア活動の持続性」について、今までの活動方法が最善なのか、大きな関心を持ち研究に取り組んだ。

2. 調査の目的、対象、方法

- 2-1 調査目的:「ボランティア活動の持続性」をテーマに、他施設のボランティアと面談して、活動を続けている理由と辞めた理由及び、団体活動として何が大切でどんな問題点があるのかを知り、持続要因を明らかにすること、及び今後を活用することを目的とした。
- 2-2 調査対象:「栗東自然観察の森」と類似する、滋賀県内の公立の自然環境教育関連施設で、施設と協働するボランティア組織を有している4ヶ所を対象とした。
- 2-3 調査方法: 予め作成した調査票に基づく聞き取りとし、派生した話の聴取も行なった。

3. 調査の結果

- 3-1 ボランティア活動の持続要因を、以下の4項目に集約した。
- 1)活動に参加できる健康面、時間面、家庭面の条件が整っていること。
 - 2)活動団体(グループ)の人間関係が良好であること。
 - 3)活動内容が活動者に見合っていること。(無理なく長期に続けられる作業内容と場所)
 - 4)活動を通じて満足感や喜びが感じられること。(社会への貢献や知識・技術の体得)
- 3-2 継続できない理由。
- 1) 高齢化問題(家族の病気等を含む)が主な退会理由であった。
 - 2)その他に退会した人の理由は、活動日が他用と重なるための理由も多かった。
- 3-3 団体運営者が重視していたことは、「気楽に参加し易い環境作り」であった。また、課題点は、先ず高齢化問題が共通する項目で、次に経費面での苦勞であった。
- 3-4 親睦行事は有効と考えられるが、個別性要因が強く、共通する持続要因では無かった。

4. おわりに

ボランティア活動は、行う人の自主性や意思の強さが必要であるとされるが、活動参加への動機は多様で、気の合う友人の誘い、イベントへの参加など結構軽いきっかけも多くある。持続性も同じことが言えるのではないかと。活動する人の意思の強さも大切ではあるが、それだけでは疲れる。気軽に楽しく活動することが長く続けられる必須条件であると考察する。それ故、本人或いは団体が、続け易い環境作りをシステムの中に組み込むことで、行動パターン化することが大切であるとの結論を得た。

今回の研究で得たことを活かしながら、今後は活動の輪を広げること及び、小さなことでも長く、気軽に楽しくをモットーに活動を続けて行くつもりである。